ICAO	欧米		日本			
ガイダンスマニュアル (Doc 9966)等	米国 客室乗務員 (CA)	欧州 客室乗務員 (CA)	運航乗務員 (PL)	CA 現行 基準	考え方 ★基本的な考え方 〇留意点	方向性
【乗務時間:FTL】 ・1日 ・7日(1週)/28日(1ヶ月) ・365日(1年) における乗務の上限時間	 ① 1日 動務開始時刻 CA最少配置数 +1名 20:00~4:59 8時間 5:00~19:59 9時間 13時間 17時間 	○1日当たりの 乗務時間設定なし	大田 「	★CAの疲労管理において、1 日当たりの上限時間を設けることは有効。 OFDPはFTLを含んでおり、指標としては、いずれも可能。 OCAの勤務形態に着目すれば、CAの追加配置が各CAの疲労軽減に直結するとは考えにくい。(PLとは勤務形態が相違。)		〇1日当たりの上限時間は設けるが、CAの追加配置が各CAの疲労軽減に直結しないこと、また1日の上限時間はFDPでも対応可能であることを踏まえ、基準としては、下記のFDPで規定することとしてはどうか。
	○1か月間:100時間 1年間:1,000時間	〇1か月間:100時間 1年間:1,000時間	〇1か月間:100時間 1年間:1,000時間	○1か月間 :100時間	★FTLとして、現行の1か月の時間上限に加え、1年間の時間上限を設けることは有効。	○欧米等と同様に FTL: 1か月間:100h 1年間:1,000h としてはどうか。
【飛行勤務時間:FDP】 上限時間は、疲労に影響を 与える要因(勤務開始時刻、 機内での休息等)で設定 ・1日 ・7日(1週)/28日(1ヶ月)	大阪門(25) 大阪	Description Description	飛行動機: 無行回数・		★CAの疲労管理において、1日当たりの上限時間を設けることは有効。(再掲) ★勤務開始時刻、飛行回数は疲労に影響する要素であり、これらに基づく基準も設けることは有効。 OFDPはFTLを含んでおり、より広範な勤務時間に着目した指標と考えることができる。 ○我が国PLの基準は既に適用されており、特段の問題は生じていない。	〇1日の上限時間を、 当日の勤務開始時刻 や着陸回数で規定する こととしてはどうか。 〇具体的には、既に我 が国で運用実績のある、PLに対するFDP の基準と同様として はどうか。
	○1週間:60時間 1か月間:190時間	○1週間:60時間 1か月間:190時間	○1週間:60時間 1か月間:190時間		★FDPとして、時間上限を設け ることは有効。	○欧米等と同様に FDP: 1週間:60時間 1か月:190時間 としてはどうか。

ICAO	欧米		日本			N
ガイダンスマニュアル (Doc 9966)等	米国 客室乗務員 (CA)	欧州 客室乗務員 (CA)	運航乗務員 (PL)	CA 現行 基準	考え方 ★基本的な考え方 〇留意点	方向性
【機内休息】 休息時間と休息施設の利用 に応じて乗務時間等の延長 量を設定 クラス1:クルーパンク クラス2:ビジネスクラス等+仕切り クラス3:40°傾斜、フットレスト付	○延長条件	● 世界条件 日本 1.30	○延長条件 編成数 機内体養設備のレベル クラス 2e クラス 3e		★CAのあような。 ではではではではではではではではではではではではではではではではではではでは	〇各CAの休憩時間、使用した休息施設に応じた上限を認めか。 ・ 具体的には、よりきめるというが、は、よりもいるというか。

ICAO	欧米		日本		考え方	
ガイダンスマニュアル (Doc 9966)等	米国 客室乗務員 (CA)	欧州 客室乗務員 (CA)	運航乗務員 (PL)	CA 現行 基準	★基本的な考え方 ○留意点	方向性
【最低限必要な 休養時間(1)】 ・乗務間/定期の ・乗務間 ・手養 ・・本測に ・本測等	■乗務間休養 8h睡眠を確保できる10h	■乗務間休養 ・本拠地:12h/直前の勤務の長い方 ・それ以外:8h睡眠を確保できる 10h/直前の勤務の長い方	■乗務間休養 8h睡眠を確保できる10h等		★ 理期確基こ ★ はのPは同え 〇しの差影と 〇基用特生のおなにをは 米生点C列とす 時CA形及限れ 国既て問ない休関設有 に理かのとす 時CA形及限れ 国既て問ない はれのい 間と態ぼ定る しにお題い で 、 準 関しのす的。 の適、は、	〇欧オラステム の大きにとしる 本邦では、 本本しては、 本本しては、 本本しては、 本本しては、 本がののは、 は、 ででる、 は、 でであると は、 ののののでは、 ののののでは、 ののでのででである。 のののでのででである。 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 ののののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 のののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 ののののでは、 のののでは、 ののでは、
	■定期休養 7日毎:30h	■定期休養 7日毎:2夜含む36h	■定期休養 7日毎:2夜含む36h等	■定期休養 7日毎:1日		
	■時差 ・順応の定義: 到着地において勤務終 了後に36h以上/到着地 に72h以上滞在 ・休養時間追加要件: 本拠地を戻らない十を 168h以上戻らな場所を 168h以上戻る場所を 168h以上戻る場所を 168h以上戻る場所を 168h以上戻る場所を 168h以上戻る場所を 168h以上戻る場所を 168h以上戻る場所を	■時差 ・順応の定義: ①出発地と到着地の時差が2h以内 or②以下の表のとおり 時差・(48년) 48~72년 72~96년 96~120년 120~6년 (46년) 8년 12년 120 120 120 120 120 120 120 120 120 120	■時差 ・順応の定義:以下の表のとおり			
	■不測事態の対応 ①FTL延長: 離陸後~着陸まで ②FDP延長 (a)離陸前:最大 2h (b)離陸後~着陸まで	■不測事態の対応 ①FTL延長:なし ②FDP延長: (a)操縦士2人時は2h、3人時は3hまで (b)勤務内最後の飛行における離陸後 の場合、目的地等へ着くまで	■不測事態の対応 ①FTL延長: 離陸後~着陸まで ②FDP延長 (a)操縦士2人時は2h、3人時は3hまで (b)離陸後~目的地等へ着くまで			OFTL/FDPに関 する議論を踏まえ て検討。

ICAO	欧米		日本		考え方	
ガイダンスマニュ アル(Doc 9966)等	米国 客室乗務員 (CA)	欧州 客室乗務員 (CA)	運航乗務員 (PL)	CA 現行 基準	★基本的な考え方 〇留意点	〉 方向性
【最低限必要な休養時間②】 ・乗務間/定期の休養時間・時差や夜間に応じた休養時間・不測な事態の時間・再調整・再間に	■休養時間の要件を満たさない短期間の休憩 短期間の休憩時間はFDPに含む。ただし、以下の条件で最少CA数の場合は、FDPから除外可 ・現地時間22時~5時に休憩可・宿泊施設で3h以上の休憩可・依憩計画が飛行勤務開始前になされていること・計画時間以上の休憩取得可・休憩は少なくとも1回目の飛行後であること・FDPと休憩の合計が14hを超えないこと	■休養時間の要件を満たさない 短期間の休憩 短期間の休憩時間はFDPに含む。ただし、以下の条件の下、PL2人の場合は、休憩時間50%までFDPを延長可 ・連続3h以上の休憩時間が可 ・飛行前後の勤務時間や移動時間(全体で少なくとも30分以上)は休憩時間 から除いて算出 ・休憩が6h以上となる場合や、身体的低調期にかかる場合は宿泊施設を 用意すること	■休養時間の要件を満たさない 短期間の休憩時間はFDPに含む。ただし、以下の条件の下、PL2人の場合は、以下の条件の下、PL2人の場合は、休憩時間50%までFDPを延長可・連続3h以上の休憩時間が可・飛行前後の勤務時間や移動時間(全体で少なくとも30分以上)は休憩時間から除いて算出・休憩が6h以上となる場合や、身体的低調期にかかる場合は宿泊施設を用意すること		★理際けラ運や的すけ ★はのPは同え Oしの差影と O基用特生のあ運イへ上件憩基こ 米生点C則と 養は務がはえ が進さ段じ疲た航ギ対調生にをは お学ら基しる 間と態ぼ定る P既お題いりに 1 対調生にをす い等ら基しる にと態ぼ定る P既お題い管実お 応整理関設効 て等、準 関Lのす的。 の適いは、	O 欧
【スタンバイ】 ・空港待機に応 じた時間調整等	■空港での待機時間: ・飛行勤務時間に含まれる ■空港以外の待機時間: ・14h以内であること ・最少CA数の場合、(a)FDP+4時間(b)「16時間」のうち少ない方の時間を超えないこと ・CAを増員した場合、FDP+4時間を超えないこと	■空港での待機時間: ・飛行勤務時間に含まれる ・待機時間が4h超過した時、同時間をFDP最大値から減 ・待機時間とFDPの合計が16h以内 ■空港での待機時間: ・16h以内であること ・待機時間+その後のFDPが18hを超えてないようにすること ・待機時間25%は累積勤務時間含 ・PL2人で待機時間が6hを超えた場合、超過時間と同時間をFDP最大値から減 ・PL3人・4人で待機時間が8hを超えた場合、超過時間と同時間をFDP最大値から減	■自宅やホテル等の適切な施設以外での待機時間: ・飛行勤務時間に含まれる ■自宅やホテル等の適切な施設での待機時間: ・14h以内であること・PL2人の場合、(a)FDP+4時間(b)「16時間」のうち少ない方の時間を超えないこと・PL3人・4人の場合、FDP+4時間を超えないこと・2よいこと			